

献 辞

津田 博先生は、2021年3月末日をもって近畿大学経営学部を定年退職されました。2010年4月に本学経営学部准教授として教鞭をとられて以来11年間、教育・研究のみならず、学部運営にも多大な貢献をされました。先生の退職にあたり、これまでのご貢献に感謝するとともに、先生の変わらぬご活躍を記念して本記念号を献呈させていただきます。

津田先生は、1955年2月、香川県で出生されました。1979年3月に山梨大学工学部計算機科学科を卒業され、2004月に大阪市立大学大学院創造都市研究科修士課程に入学されました。2006年3月、修士課程を修了され、同年4月に摂南大学大学院経営情報学研究科博士後期課程に進まれ、2009年3月に博士後期課程を修了されています。

学部運営においても、多大な貢献をされました。経営学科長を2012年10月～2020年9月まで8年間務められ、経営学部の発展に貢献されました。

特に、経営学科長時代には、ビジネスプランコンテストの企画立案、立ち上げ、定着と当初から中心的な役割を果たされました。現在も経営学部の看板プログラムの一つとして機能しています。

津田先生は、研究活動においても顕著な業績を残されています。『地方自治体の情報システム調達と情報セキュリティ』2006年、『地方自治体の IT ガバナンスとシステム監査』2007年、『地方自治体における RPA の活用』2019年と一貫して地方自治体の情報システムに関する研究を継続されてきました。特に、2018年～2021年にかけて18回に渡り、『自治体クラウド展開の課題と対策』をシリーズで執筆され、自治体の情報システムの実態の解明から、運用効果の分析に至るまで、自治体の情報システムの発展に貢献されました。一方、『ビジネス・キャリア検定試験標準テキスト経営情報システム（2級）』2007年、『電子自治体実践ガイドブックー IT 変革期の課題と対応策』2014年、『事例でわかる！ここまでできる！自治体の実践 RPA』2020年など

研究成果を教育面にまで展開され、より実践的な情報教育に貢献されました。

また、システム監査人協会等で講演やシンポジウムにも積極的に参加され、『個人番号カードの多目的利用の課題と展望』2016年、『人口知能を活用した窓口業務の効率化』2018年等、情報システムの今後の展開について情報発信を続けられています。

また、教育面でも多大な貢献がみられます。温厚で誠実なお人柄を慕って、学部や大学院のゼミナールには多くの門下生が集い、卒業生は各方面で活躍されています。学生に大変慕われておられ、退職された今も、ゼミの卒業生に誘われ、頻繁に食事に行かれているそうです。

さらに、学会運営においても、2018年 経営情報学会 全国研究発表大会にて、大会委員長を務められ、現在に至るまで大いに活躍されています。

また、社会活動の面からも、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会能力開発委員会物流技術管理士専門委員会の委員を2004年4月から、東大阪市情報化施策推進に関する有識者会議委員を2012年11月から、東大阪市特定個人情報保護評価点検委員会委員を2015年11月から務められ、いずれも現在も継続中とのこと。現在もなお地域社会の貢献に努められています。

津田先生は、近畿大学退職後の2021年4月からは、大阪経済法科大学経営学部へ赴任され、新たな職場で活躍されておられます。これからも、健康に十分留意され、なお一層のご活躍をされますよう祈念いたしております。併せて、この退職記念号に玉稿をお寄せいただいた執筆者の各位ならびに編集委員の労に対し、心より厚くお礼申し上げます。

2022年3月

近畿大学経営学部長
桂 真 一